一般演題9-2
当院の高気圧酸素治療の現状
ー治療回数に注視してー

小村　寛[1)]　盛本真司[1)]　川田慎一[1)]
改元敏行[1)]　尾崎修一[1)]　山本遼太郎[1)]
永田悦朗[2)]

1）鹿児島市医師会病院　高気圧酸素治療室
2）鹿児島市医師会病院　麻酔科

【はじめに】

当院では2003年3月より高気圧酸素治療装置（第2種装置）による高気圧酸素治療（以下HBO）を施行している。今回は治療回数に注視し検討した。

【対象および方法】

当院では川崎エンジニアリング社製KH0301（第2種装置）を使用しHBOを施行している。2003年3月から2017年7月までの14年間にHBOを施行した1,926例（男性1,195例, 女性731例）平均年齢63.4歳を対象とした。

【結果】

治療件数は2004年をピークに減少している。消化器内科の病床数の減少など病院の体制に起因するものだが現在では採算ベース下限である年救急360件を下回ることもある（**図1**）。疾患の上位の内訳はイレウスが50%, 難治性潰瘍を伴う末梢循環障害23%, 以下突発性難聴6%, 急性末梢障害-b4%, 脳梗塞4%, 脳血管障害2%であった。疾患別平均治療回数はイレウスが7.1回であった（**図2**）。平均治療回数が14回以上の治療回数を必要とした疾患もあった。平均治療回数でみると網膜動脈閉塞症が多かった。最大治療回数をみると100回を超えている例があり, これは少数の特定の方に限り治療回数が多いことを示している（**図3**）。

【考察】

施行回数は21,924回であり, 厚生労働省基準での適応では救急的適応が4,991回, 適応外疾患での施行が16,933回であった。治療回数は7回以下が966例で全体の50.1%を占めた。適応疾患はイレウスが651例67.3%, 難治性潰瘍を伴う抹消循環障害が164例16.9%, 減圧症が38例3.9%, その他が113例11.6%であった。また, 治療回数が7回以下での救急的適応が793例82.0%であった。一方治療回数が29回（4週）を超える例が117例6.0%であった。適応疾患は難治性潰瘍を伴う抹消循環障害が37例31.6%, 突発性難聴が24例20.5%, イレウスが13例11.1%, 急性抹消障害ーbが10例8.5%, その他が33例28.2%であった。最長治療回数は難治性潰瘍を伴う抹消循環障害の548回であった。厚生労働省基準では適応疾患につき発症後1週間以内に行う場合に救急的なものとして算定される。今回の検討でも7回以下の治療の82.0%は救急的適応疾患でありイレウスが67.3%をしめた。これは当院に消化器内科および消化器外科があることに起因すると思われる。また, 4週を超える例が117例6.0%を認めた。長期に及ぶHBO終了の決定は困難で治療効果の客観的判断以上に患者本人の訴えによることもある。HBO終了の検討も少なく治療終了は患者の訴えや主治医の判断に委ねられている。今後は治療終了の決定に関する検討も必要と思われる。

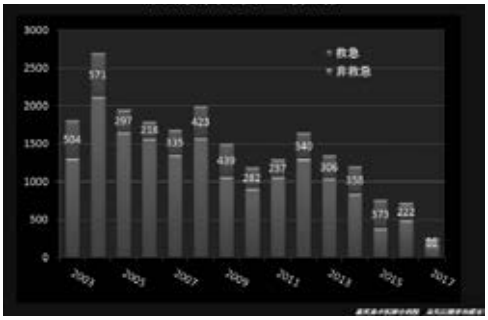

図1　治療件数の推移

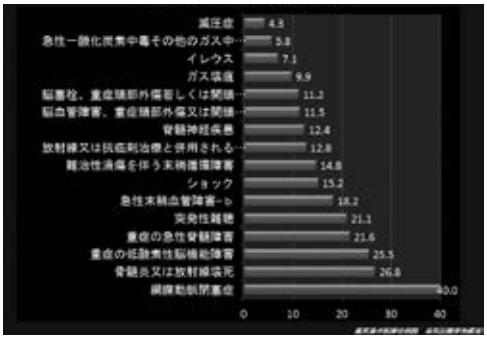

図2　疾患別平均治療回数

	治療回数			患者数	救急	非救急
	平均	最大	最小			
網膜動脈閉塞症	40	167	5	6	36	204
骨髄炎又は放射線壊死	26	61	8	10	0	268
重症の低酸素性脳機能障害	25	108	1	24	82	531
重症の急性骨髄障害	21	136	1	14	44	259
突発性難聴	21	184	1	126	76	2578
急性末梢血管障害-b	18	130	1	119	454	1552
ショック	15	36	5	5	19	57
難治性潰瘍を伴う末梢循環障害	14	548	1	458	33	6764

図3　平均治療回数が14回以上の疾患